

保育を学ぶ学生の造形表現への意識

Awareness of Creative Expression among Students Studying Childcare

三好 和幸

Kazuyuki Miyoshi

はじめに

保育者には、成長の推進力となる体験や環境づくりを采配して、子ども達それぞれの人格形成に資することが求められ、保育士や幼稚園教諭達は日々尊い取組を行っている。幼児の養護と教育を一体的に行う保育において、様々な体験を通して豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うことが求められており、音楽、身体による表現と並んで造形表現活動がその中核を担っている。

保育を学ぶ学生は自らが小学校での「図画工作」、中学校・高等学校での「美術」の授業において、造形・美術表現や鑑賞の体験から基礎的な技能を習得し、感性を磨いてきた。

写実表現が伸びる11～14歳頃には、「理解していても絵に表現することができず悩んだり」¹⁾することが出てきて、造形・美術表現を大変得意と感じている一部の児童生徒以外は多かれ少なかれ、造形・美術表現への苦手意識を持つようになる。大人になった彼らの多くは「絵を描くのは苦手で」と言い、この分野にそんなに自信が持てなくとも、日々の生活に困ることはないだろうと考えるに至る場合もあるであろう。

保育を学ぶ学生にあっても、自身の造形・美術表現に対しあまり自信を持ってないまま取り組んでいる場合も少なからずあると思われる。しかし、保育者を目指す学生となって幼児期の表現活動の重要性を知り、子ども達がいろいろなものの美しさや良さに対する感性を高め、自分なりの表現を楽しむことができるような指導者になりたいと思うだろう。そのため彼らは、自らの技能を高め、自らの感性を高め、自分自身を臆さず表現し、ある程度の「自分が造形表現の指導を任されてもよい」と思える根拠と自信がほしいと考えるようになる。

今回、保育を学んでいる学生73人（兵庫県豊岡市と姫路市の大学1年生40人、うち女子36人・男子4人と、2年生33人、うち女子31人・男子1人・性別記さず1人。アンケート結果において学年による違いはほとんど見られず、また男子の数が少なく性別による差は検討できなかったので73人全体の結果を扱うこととした。）に小・中・高等学校での「図画工作」・「美術」授業に対する意識や現在の「造形表現」への意識等についてアンケートをとり、彼らは実際どのように感じているのか

を調査した。そこで見えてきた苦手意識を解消または緩和させて、彼らが「造形表現」にこれまで以上に自信を持ち、前向きに取り組んでいける一助としたい。

保育における造形教育の役割、意義

学校教育法第22条において「幼稚園は、義務教育とその後の基礎を培うものとして、幼児を保育し健全な成長のために適当な環境を与えて、心身の発達を助長することを目的とする。」²⁾と規定されている。また、第23条の五 においてその目標の一つとして「音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて豊かな感性と表現の芽生えを養うこと」³⁾を挙げている。

「幼稚園教育要領」、「幼保連携型こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」において、乳児期・幼児期における保育及び教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、乳幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うことを基本とするとされている。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」には、知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力・人間性についての具体的な姿が示されており・自然との関わり・数量や図形、標識や文字等への関心・感覚・豊かな感性と表現 等造形に関わる項目があり、その他にも協同性や思考力の芽生え等多くの項目で造形に関連がある内容が見られる。

豊岡短期大学『造形表現論』においてはそれらを受けて、造形教育・芸術活動は人間形成の一環として重要で意義あるものであると位置づけている。

その意義について、「感性を豊かにし、自然やものを愛する心情を育てる。」「造形活動を通して、体験を充実させ、生きる力を育てる。」「つくる喜び表現する喜びを味わい、自己表現や芸術活動を楽しむ。」「造形能力の発達を通して、生きていく諸能力の発達を促す。①創造力を培う②想像力を豊かにする③認識する力を深める④手の巧緻性や表現技術を高める」⁴⁾ことを具体的に挙げている。

これらを導くためには、保育者自身が造形教育・芸術活動の内容についてその意義を深く理解し、各内容についての素養を高めるとともに、自分自身の感性をみずみずしく保ち、造形作品や造形表現活動に対して感動する心を磨いておかなければならない。

保育を学ぶ学生が、現在学んでいる「造形表現」や小・中・高校時代の「図画工作」・「美術」等についてどのような印象や考えを持っているか特に苦手意識はないか等について、意識調査をすることにした。

保育を学ぶ学生へのアンケート調査

アンケート調査の方法・内容

「造形表現」を学んでいる学生73人に下記のアンケートを実施した。

以下の質問に対し、あてはまるものに○をつけてください。

1. あなたは、絵を描くことは好きですか？

- そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない
2. あなたは、製作物をつくるのは、好きですか？
- そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない
3. 小・中・高校生の時は、「図画工作」「美術」は、得意でしたか？
- 大変得意だった 得意だった どちらでもない あまり得意ではなかった 苦手である
4. あなたは、「造形表現」に関して、苦手意識を感じていますか？
- そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない
5. 4で「苦手」と感じている人にお聞きします。なぜ、苦手と思うのかその理由を教えてください。
- ()
6. 「造形表現」について思うことがあれば、書いてください。
- ()

アンケート調査の結果

1. あなたは、絵を描くことは好きですか？

そう思う…12人 (16.4%)、ややそう思う…23人 (31.5%)、
どちらでもない…14人 (19.2%)、ややそう思わない…12人
(16.4%)、そう思わない…12人 (16.4%)

「そう思う」と「ややそう思う」の計は35人 (47.9%) で半数
近くが絵を描くのが好きと回答している。



図1 絵を描くことは好きですか

2. あなたは、製作物をつくるのは、好きですか？

そう思う…19人 (26.0%)、ややそう思う…28人 (38.4%)、
どちらでもない…11人 (15.1%)、ややそう思わない…9人
(12.3%)、そう思わない…6人 (8.2%)

「そう思う」と「ややそう思う」の計は47人 (64.4%) にのほ
り、半数以上が好きと回答しており、描画に比べても大変多い。

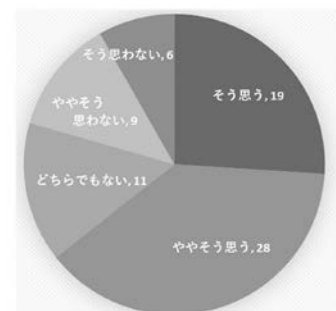


図2 製作物をつくるのは好きですか

3. 小・中・高校生の時は、「図画工作」「美術」は、得意でしたか？

大変得意だった…3人 (4.1%)、得意だった…19人 (26.0%)、
どちらでもない…16人 (21.9%)、あまり得意ではなかった…
26人 (35.6%)、苦手である…9人 (12.3%)

「大変得意だった」と「得意だった」人数の計は22人 (30.1%)

で、逆に「あまり得意ではなかった」と「苦手である」の計は35人 (47.9%) にのほり、半数近くが

児童生徒時代には苦手としていた。

4. あなたは、「造形表現」に関して、苦手意識を感じていますか？

そう思う…6人(8.2%)、ややそう思う…18人(24.7%)、どちらでもない…15人(20.5%)、ややそう思わない…23人(31.5%)、そう思わない…11人(15.1%)

「ややそう思う」を含め、24人(32.9%)が苦手意識を感じている。しかし、34人(46.6%)は「ややそう思わない」を含め、感じていないと回答している。

以上の結果を比較しやすくするため、設問毎に横向きのパラグラフをつくり、縦に並べてみた。

4「造形表現に苦手意識を感じているか」については、肯定的な回答、そうでない回答をそろえるために「苦手意識がない」とした。

「造形表現」については小・中・高校時代の「図画工作」・「美術」に比べ、苦手意識を持つ割合は減っているものの、それでも約三分一の学生が苦手意識を感じている。

「造形表現」に苦手意識を感じている、やや感じているを合わせた(苦手意識のある)人数は24人であり、そのうち小・中・高校時代に図工・美術が大変得意だった者は0人、得意であった者は1人、どちらでもないが6人、あまり得意ではなかった者は11人、苦手であった者は6人だった。

「造形表現」に苦手意識を感じているかの問いに、そう思わない・ややそう思わないを合わせた(苦手意識のない、または少ない)人数は34人で、そのうち3

小・中・高校時代に図工・美術が大変得意だった者は3人、得意であった者は12人、どちらでもないが6人、あまり得意ではなかった者は10人、苦手であった者は3人だった。

小・中・高校時代の「図画工作」・「美術」の苦手意識と、現在の「造形表現」の苦手意識の相関については「図画工作」・「美術」が得意だったかどうかで見ると、比例していると見える。しかし、「図画工作」・「美術」に苦手意識のあった35人中「造形表現」では苦手意識を感じていない、または



図3 図工・美術は得意でしたか



図4 「造形表現」に苦手意識はありますか

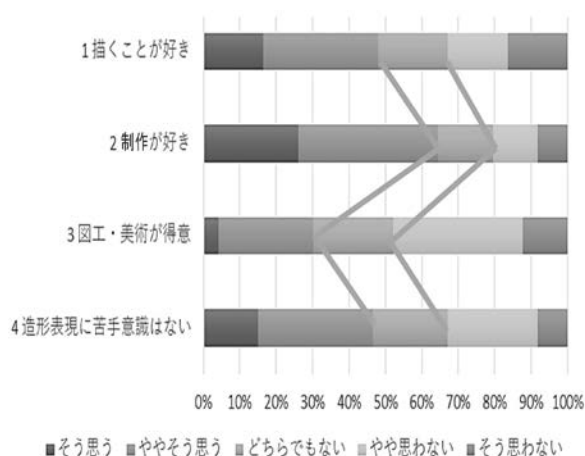


図5 項目間の比較

苦手意識の少ない者が13人あることは特筆すべきであり、後述するが、現「造形表現」の授業により現在の苦手意識が減った、または薄らいできたとも思われる。

5. 4で「苦手」と感じている人にお聞きします。なぜ、苦手と思うのかその理由を教えてください。

※4で「そう思う」、「ややそう思う」を選んだほぼ全員が回答し、「どちらでもない」を選んでいても回答している者もあった。

「絵画を描くのが苦手」「描く、作るのが苦手」「うまく作れるか不安」等製作活動や作品のできばえに対して苦手、自信がない等と答えたのは19人であり、「上手、下手が気になる」「自他ともに下手と思っている」「評価されるのは嫌」等の7人と合わせると26人で、回答数37人（実人数32人、複数の内容を回答した者があるため）の70.3%を占めた。ついで「センス、アイデアがない」「自分で考案するのが苦手」等が8人で、その次に「製作時間が足りない」「できあがらず、持ち帰り課題になってしまう」等が3人あった。また、「製作は好きだが、絵が嫌い」「ものによって難しく感じる」「楽しくない」等の回答があった。

6. 「造形表現」について思うことがあれば、書いてください。

※28人が回答した。

「楽しい」（3人）、「正解がなく何をしても良いから楽しい」「小中の頃より楽しめている」「この学校で造形を教えてもらい、楽しいと感じた」「色々な表現方法を知るのは楽しい」等、楽しい・面白い・好き等と18人が回答した。自由に制作でき、それぞれの個性を楽しめることで多くの学生が前向きに感じていることがうかがえる。

「苦手」「難しい」との回答は2人あり、「折り紙だけは苦手」とか「絵を描くのは苦手」等造形表現の一部を苦手・嫌いとした3人が回答した。しかし、「得意ではないが好き」という回答もあった。「こだわりすぎて時間が足りない」等の回答も2人あった。

また、「西洋絵画も鑑賞したい」、「もっといろいろなものを作りたい」という意欲旺盛な回答もあった。「保育士として必須であり、イラストならなんとかできる」と感じている者があった。

アンケート調査の考察

「絵を描くこと」「製作物をつくること」のそれぞれが好きな割合は製作物の方が多いが、2項目を平均すると56.2%であった。好きではない割合は2項目平均で26.7%であった。小・中・高等学校時代の「図画工作」・「美術」の表現活動が得意であったか、苦手であったかを聞くと、得意との回答が30.1%あったが、苦手との回答は47.9%とほぼ半数にのぼった。「造形表現」について苦手意識を感じていない者は46.6%、苦手意識を感じている者は32.9%だった。「図画工作」・「美術」に比べ現在の「造形表現」の方が苦手意識を感じていない者が多いのは、「自由に表現できる」「正解はない」ので「楽しい」との記述回答からも察せられるように、「造形表現」授業の取組やそのありよう

が功を奏していると考えられる。

しかし一方で、苦手意識を感じている者が現在においても3割を超えている。これには様々な要因があるが、描画や製作物への苦手意識を持っており、評価や上手下手が気になってしまう等が考えられる。また、与えられた課題をこなすことに精一杯で、「正解がなく、自由に制作」することにとまどい、自信のなさを改めて意識させられる者もあると思われる。

実際の回答例を見てみる。

回答A

1. あなたは、絵を描くことは好きですか？
そう思わない
 2. あなたは、製作物をつくるのは、好きですか？
どちらでもない
 3. 小・中・高校生の時は、「図画工作」「美術」は、得意でしたか？
苦手である
 4. あなたは、「造形表現」に関して、苦手意識を感じていますか？
ややそう思わない
 5. 4で「苦手」と感じている人にお聞きします。なぜ、苦手と思うのかその理由を答えてください。
 6. 「造形表現」について思うことがあれば、書いてください。
(小中の時より楽しんですることができている。高校美術はしてません。)
- ※絵を描くのが好きではなく、小・中時代の図工・美術は苦手だったが、現在苦手意識はあまりない例

回答B

1. あなたは、絵を描くことは好きですか？
ややそう思わない
2. あなたは、製作物をつくるのは、好きですか？
ややそう思わない
3. 小・中・高校生の時は、「図画工作」「美術」は、得意でしたか？
苦手である
4. あなたは、「造形表現」に関して、苦手意識を感じていますか？
ややそう思う
5. 4で「苦手」と感じている人にお聞きします。なぜ、苦手と思うのかその理由を答えてください。
(うまく表現できないから。)

6. 「造形表現」について思うことがあれば、書いてください。

※絵を描くことも製作物をつくることもやや好きではなく、小、中時代の図工・美術は苦手であり、現在もやや苦手意識を感じている例

回答C

1. あなたは、絵を描くことは好きですか？

そう思う

2. あなたは、製作物をつくるのは、好きですか？

そう思う

3. 小・中・高校生の時は、「図画工作」「美術」は、得意でしたか？

どちらでもない

4. あなたは、「造形表現」に関して、苦手意識を感じていますか？

ややそう思う

5. 4で「苦手」と感じている人にお聞きします。なぜ、苦手と思うのかその理由を答えてください。

(絵を描くことも、製作物を作るのも好きだけど、他の人とくらべると「自分は下手なのかも」と思ってしまう。あと、思ったように表現できない。)

6. 「造形表現」について思うことがあれば、書いてください。

(簡単なものは誰でもできて楽しい。人それぞれの表現があるので、相手と違うと面白い。)

※絵を描くことも製作物をつくることも好きで、人それぞれの表現が面白いと思っているが、「造形表現」にやや苦手意識を感じている例

回答Aは「造形表現」授業により表現の楽しさを感じることができるようになった例とみられる。また、回答B、Cのように絵を描くことや製作物をつくるのが好きであっても、あるいはそうではなくても「造形表現」に苦手意識のある場合「上手く表現できない」「自分は下手」「思うように表現できない」等の回答が多かった。

アンケート調査の結果を活かすための取組について

アンケート調査の結果を活かす 学生達がより自信を持ち、楽しんで「造形表現」を学ぶために

アンケート調査の結果より、32.9%の学生が「造形表現」に苦手意識を持っており、その要因として、「自分が思っているようには上手に表現できない」という不安を感じていることがあげられる。思春期に差し掛かると、より具象的でリアルな表現をしたいとの欲求に対し、自分が描く作品がか

け離れていて「下手」だと感じる人が多い。この苦手意識を解消または緩和させ、今後十分楽しんで「造形表現」を学び、将来幼児等への「造形表現」活動を自信を持って指導できるようになることへの手助けになるための取組等について考えていく。

新しい視点でものを見るための素描の取組

素描（デッサン）とは、「黒・セピアなどの単色の線で物の形象を表し、また陰影をつけた絵。絵画の習作や下絵として描かれるが、完成品としても鑑賞される。デッサン。」⁵⁾とされており、絵画を始めとするすべての造形・美術表現活動の基礎となるものである。

「決定版 脳の右側で描け」の著者であるベティ・エドワーズ (Betty Edwards) によると、素描を学習することは、そこにあるものを見て、見えたものを描くことである。それにより、脳の右半球を活性化させ、いわゆる「棒人間」のような、論理的かつ言語優位の脳の左半球が主導してきた幼いころからのシンボルにとらわれずに、あるがまま（見えるまま）を表現できる力を高めることが期待できる。要するにものの見方を鍛えることができるのである。それが、素描がすべての造形・美術表現活動の基礎といわれるゆえんである。この著書を参考に、実践方法を考える。

(a)「純粹輪郭画法」⁶⁾ 注1) の練習

机上に用紙を置き利き手で鉛筆を持ち、それが目にはいらないように体の向き・姿勢を保つ。利き手でない方の手をモデルとし（くしゃくしゃの紙等でも良い）、そのみを見て目に見える線を余すところなく描き切る。用紙の手元を見ていないので、完成された形を描くことはできないが、「見る」ことに関してはこれまでにない集中力を発揮して、目の前のすべてを見尽くすという新しい感覚を味わうことができる。



図6 純粹輪郭画法の練習

この練習を行った後に具体物でも美術作品でも良いので見てみると、明らかに見え方が変わってくる。「見る」ことに特化した練習により、すぐに絵が上達するわけではないが「見る力」と感覚を集中的に鍛え、高めることができる。

(b)「修正輪郭画法」⁷⁾ 注2) の練習

上記の純粹輪郭画法に少し変更を加える。違いは用紙とモデルを同方向に置くことと、描き進める際にチラチラ用紙を見て軌道修正しても良いことである。しかし、あくまで主眼は描くモデルを十二分に観察し、細部まで目で追っていくことであり、見るのはモデルを8割とし、用紙は2割程度にと



図7 純粹輪郭画法による手の描写



図8 修正輪郭画法による手の描写

どめる。「純粹輪郭画法」で行った体験はそのままに、より現実的な素描の結果が得られる。そのことにより、学習者は自信とコツを得られやすい。それが、次の造形・美術表現活動への後押しとなる。

(c) デッサンスケールを補助的に用いて

デッサンスケールは立体の世界の一部をワクで切り取り、さらに縦横の中間線をワクの中に加えることにより、平面（２次元）状に再現する補助となるものである。伸ばしていた手の指を折り曲げた形をとらえて描くことは一般的にはけっこう難しく感じられる。また、用紙上に小さくならずバランスよく描くのも初心者には壁になる場合がある。修正輪郭画法の補助として必要な場合には、デッサンスケールを利用することにより全体のバランスを整えたり、見えるがままの形にかなり近づく助けになる。



図9 デッサンスケールの設置

自撮り棒（スタンドタイプ）に貼り付けて自立させて使用し両手を空けた



図10 観察

デッサンスケールを通して観察することでバランスを整え、今見えるままの形をとらえやすくする



図11 描画

これらの方法により写実的に正しく描く、そのことがこの取組の目的ではない。今後自信とさらなる興味を持って造形・美術表現活動を楽しんで学べるように、余すところなく対象を見るという体験を通してものを見る力を高めて技能向上の基礎とすると同時に、感性を磨くことが目的である。

おわりに

今回のアンケート調査に応じてくれた保育を学ぶ学生のうち半数近くが小・中・高等学校時代の「図画工作」・「美術」への苦手意識を持っていたと回答し、約3割が「造形表現」について苦手意識を持っていることがわかった。今回示した方法で「素描」を学ぶことで、新しい視点からものを見る目を養い、これまでよりもより楽しんで、また自信を持って「造形表現」に取り組んでもらいたいと思う。色々な発達段階にある子どもの絵や製作は大人のそれとは違うものだが、保育者自身が

自分なりの「造形表現」を楽しんでいることが、子どもの豊かな感性と表現の芽生えを養うことへの大きな力となる。

今後は、保育を学ぶ学生達がさらに「造形表現」を楽しんでいけるよう、豊かに発想し創造力を発揮することや、日頃からアートに親しみ鑑賞から何かを得ようとする事等について考察していきたいと考えている。

引用文献

- 1) 岩田健一郎・前田豊稔 他. (2019). 造形表現論. 豊岡短期大学通信教育部.
- 2) 文部科学省. (2018). 幼稚園教育要領解説平成30年3月. フレーベル館.
- 3) 前掲書.
- 4) 岩田健一郎・前田豊稔 他. (2019). 造形表現論. 豊岡短期大学通信教育部.
- 5) 池上秋彦・金田 弘 他(編). (1995). 大辞泉. 小学館.
- 6) Edwards, B. (2013). 決定版 脳の右側で描け (野中邦子, 訳). 河出書房新社. (Drawing on the Right Side of the Brain)
- 7) 前掲書.

参考文献

- Edwards, B. (2013). 決定版 脳の右側で描け (野中邦子, 訳). 河出書房新社. (Drawing on the Right Side of the Brain)
- 岩田健一郎・前田豊稔 他. (2019). 造形表現論. 豊岡短期大学通信教育部.
- 文部科学省. (2018). 幼稚園教育要領解説平成30年3月. フレーベル館.
- 大塚習平. (2020). 授業「造形表現」に関する学生の意識調査. 東京都市大学 学部・大学院・研究所 人間科学部. (<https://www.tcu.ac.jp/academics/humanlife/>) (2024年7月24日15時25分)

注 釈

- 注1) 2) 例えば手の微細なしわに至るまで、線に見える部分はすべて「輪郭」(Edge) と記されているので、それに従った。